

柏の景気情報（平成21年6月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成21年6月分）

○ 調査期間 : 平成21年6月17日 ~ 6月23日

○ 調査対象 : 柏市内107事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	107	76	71.0%
建設	19	15	78.9%
製造	23	17	73.9%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	22	13	59.1%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成21年6月の調査結果のポイント】

《業況DIが4か月連続で回復 業況や先行きには不安感あり》

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.9(前月水準▲59.7)となり、マイナス幅が△5.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲38.4(同▲56.2)、建設業▲53.3(同▲66.6)、製造業▲47.0(同▲58.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲64.5(同▲58.6)である。

【建設業】では、「仕入単価は品物によってばらつきがあり、鉄関係は下がり気味」(一般土木建築工事業)「公共工事の前倒しの効果か、見積もり件数は増えてきているが、単価等内容はさらに厳しくなっているように思われる」(石工・れんが・タイル・ブロック工事業)「7～8月の受注は確保できましたが、5～6月の減少が悪影響となることが懸念されます」(板金・金物工事業)「業況は低迷している。受注の規模が小さくなり、設備投資も最低に抑える傾向にある。公共工事の前倒し・エコポイントの効果が表れるのはこれからだろう」(電気工事業)など、特に公共工事の前倒しに関するコメントが多く寄せられた。

【製造業】では、「状況は低水準で推移しているのでこれ以上下がるとは考えづらいが、それ以下になると、何らかの対策を取らねばならなくなる」(その他の鉄鋼業)「設備投資をするには費用面ではいい時期だと思います。また経営上のアイデアを練る時間もたっぷりありますが、利益として回収する自信があれば…」(生コンクリート製造業)などの声が上がって

【卸小売業】では、「5月のゴールデンウィーク明けから営業不振が継続しています」(食料・飲料卸売業)「天候不順と新型インフルエンザの影響か学校の休校等もあり、来客数減少＝売上マイナス。北部地区と隣市のショッピングセンターなど全体的に乱立気味で、売り出し等の頻度が増している、店舗と価格の競争が激しく、空き店舗が目立つようになったなど、当分この傾向が続くと思います」(その他の飲食料点小売業)「業界全体の売上高が前年比94～95%となっている。店舗数の減少と売り場面積の増大が相変わらず続いている」(書籍・文房具小売業)「売上の下げ止まり感は全くない。各種の経済活性化策も、小売り業界には反映されていないような気がする」(その他の各種商品小売業)など、多くのコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊・宴会ともに企業利用が減少。宴会は新型インフルエンザで取りやめが2件あった」(ホテル)「人手が足りないため募集したところ、100人近くの応募があり逆に困りました。こんなところにも失業率の高さと不況の現実を目の当たりにしました」(獣医業)などのコメントがあった。

◎先行き不安

多くの業種から、「良くなる見通しはありません」(一般土木建築工事業)、「県の発注工事が例年より遅れているので今後の状況が不安である」(土木工事業)、「現経費の見直しを実行し、経営していますが、昨今の消費者の節約がますます景気低迷につながるのではないかと不安もあります」(食料・飲料卸売業)、「先行き増税(時期上げ幅)が心配」(書籍・文房具小売業)など、声が多く上がっていた。

◎厳しい業況

各業種から、「本年9月以降より建築基準法・昇降機法令が強化され、費用の増が必ずしも販売価格に反映されず、大変厳しい経営環境となる」(一般産業用機械設備製造業)、「全体的に悪いながらも大きな落ち込みはなさそう。増産のための設備投資は聞こえないが合理化のための設備投資を行う声は聞こえる。関係業者からは、ギリギリの状態だという声があり、多くの業者が雇用調整助成金を利用している」(その他の機械・同部分品製造業)、「本全体の景況感には「下げどまり」と言われていますが、百貨店業界については当面「下げどまり」はないと考えています。百貨店を含め小売業全体が淘汰・再編の中にあり、これが落ち着くまでは厳しいものと考えております」(百貨店)、「春もの野菜の入荷増量はあるが、安値傾向で推移しています。果実では順調な入荷がありますが、同様に単価安で動いています。総体的にはやや入荷減・取扱高も減の相変わらず厳しい状況です」(食料・飲料卸売業)などのコメントもあった。

◎共通商品券

6月に柏市共通商品券が販売されたことから、各業種より、「共通商品券を当社でも扱うことにしましたが少々PR不足のような気がします」(管工事業)、「プレミアム商品券の利用も、毎日の食料品を中心に購入されるのではないかと思います」(その他の各種商品小売業)、「悪化している。メニューの改定等と7月に対策を考えているが、値下げしか思いつかないのが経営者として残念。今後は共通商品券が頼りの綱です」(酒場・ビヤホール)などの声寄せられ、市内事業者からも、関心を持たれていたことがうかがえる。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
H21年1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
見通し	▲38.1	▲40.0	▲35.2	▲41.9	▲30.7

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成21年6月の業況についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.9(前月水準▲59.7)となり、マイナス幅が△5.8ポイント縮小した。

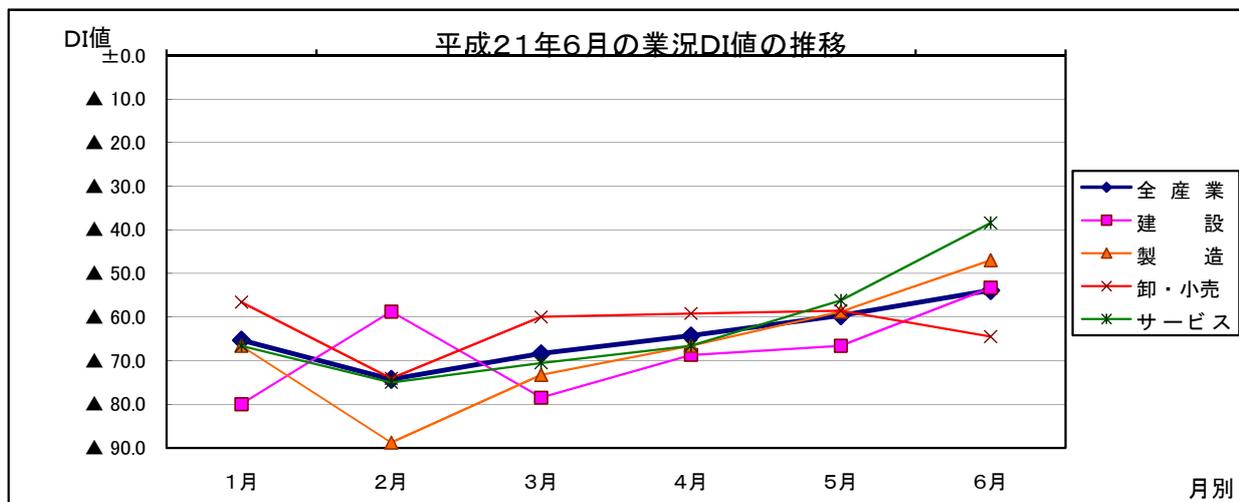
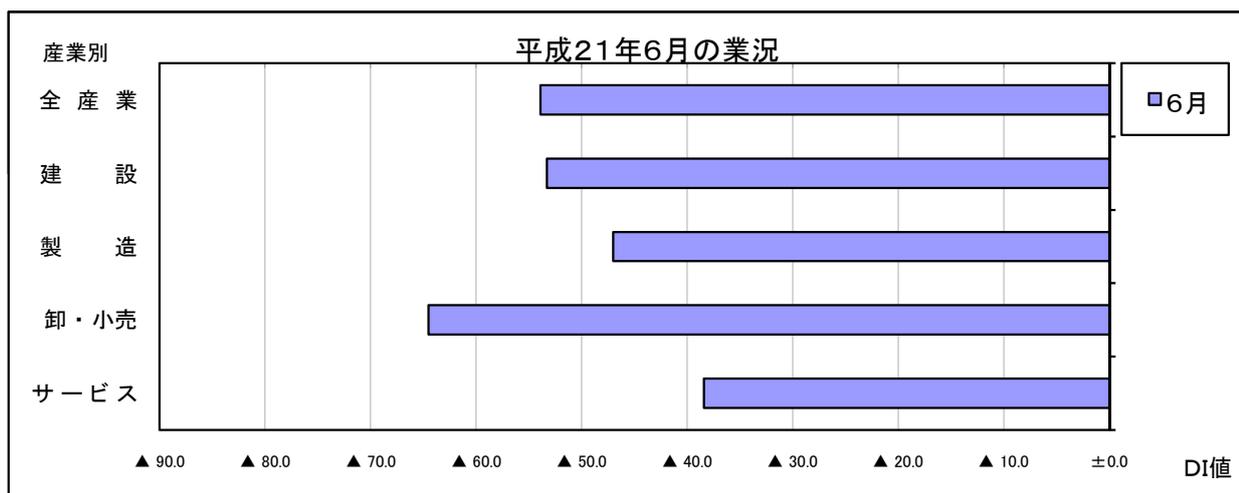
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲38.4(同▲56.2)、建設業▲53.3(同▲66.6)、製造業▲47.0(同▲58.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲64.5(同▲58.6)である。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲38.1(前月水準▲35.0)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲30.7(同▲37.5)である。変らない見通しの業種は、建設業▲40.0(同▲40.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲41.9(同▲34.4)、製造業▲35.2(同▲29.4)である。

平成21年6月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成21年						先行き見通し	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月~9月	6月~8月
全産業	▲65.3	▲74.3	▲68.4	▲64.3	▲59.7	▲53.9	▲38.1	(▲35.0)
建設	▲80.0	▲58.8	▲78.5	▲68.7	▲66.6	▲53.3	▲40.0	(▲40.0)
製造	▲66.6	▲88.8	▲73.3	▲66.6	▲58.8	▲47.0	▲35.2	(▲29.4)
卸・小売	▲56.6	▲74.1	▲60.0	▲59.2	▲58.6	▲64.5	▲41.9	(▲34.4)
サービス	▲66.6	▲75.0	▲70.5	▲66.6	▲56.2	▲38.4	▲30.7	(▲37.5)



【平成21年6月の売上についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲46.0(前月水準▲51.9)となり、マイナス幅が▲5.9ポイント縮小した。

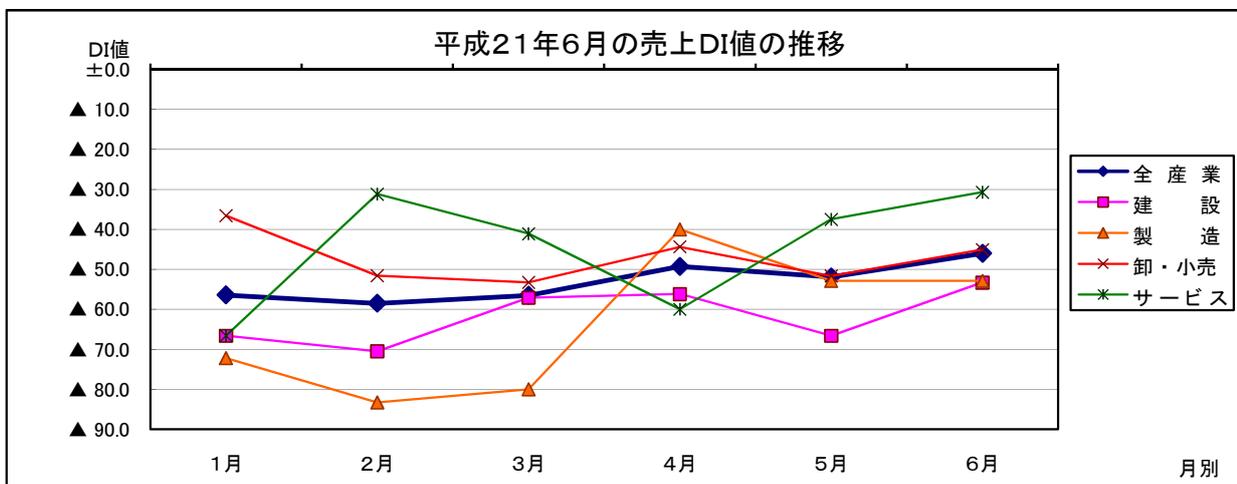
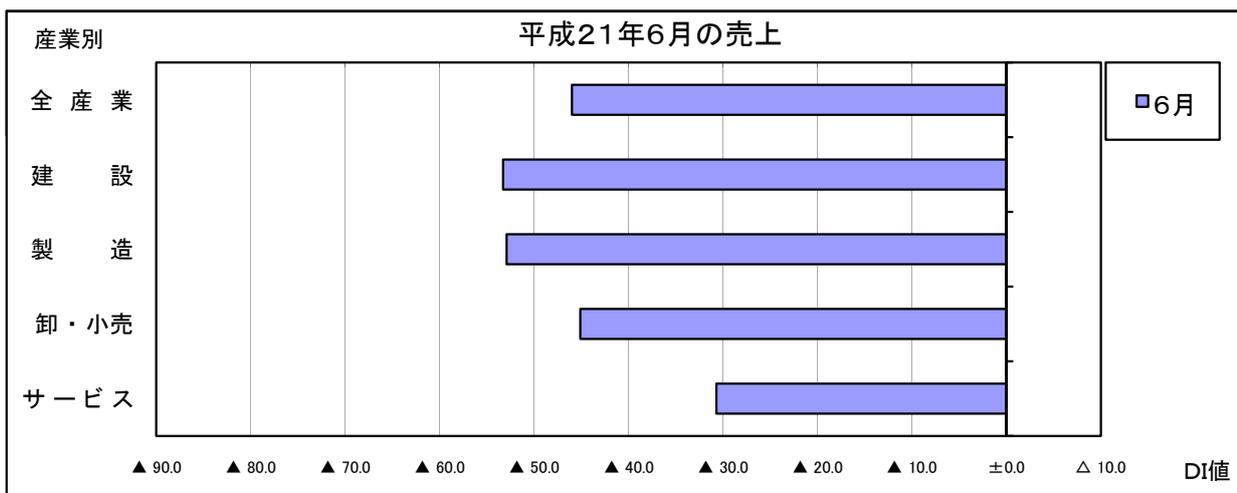
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲53.3(同▲66.6)、サービス業▲30.7(同▲37.5)、卸小売業▲45.1(同▲51.7)である。変らない業種は、製造業▲52.9(同▲52.9)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲32.8(前月水準▲33.7)となり、マイナス幅が△0.9ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.6(同▲31.2)、卸小売業▲29.0(同▲31.0)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△23.6ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲29.4)、建設業▲53.3(同▲46.6)である。

平成21年6月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲56.4	▲58.5	▲56.5	▲49.3	▲51.9	▲46.0	▲32.8(▲33.7)
建設	▲66.6	▲70.5	▲57.1	▲56.2	▲66.6	▲53.3	▲53.3(▲46.6)
製造	▲72.2	▲83.3	▲80.0	▲40.0	▲52.9	▲52.9	▲41.1(▲29.4)
卸・小売	▲36.6	▲51.6	▲53.3	▲44.4	▲51.7	▲45.1	▲29.0(▲31.0)
サービス	▲66.6	▲31.2	▲41.1	▲60.0	▲37.5	▲30.7	▲7.6(▲31.2)



【平成21年6月の採算についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲48.6(前月水準▲62.3)となり、プラスマイナス幅が△13.7ポイント縮小した。

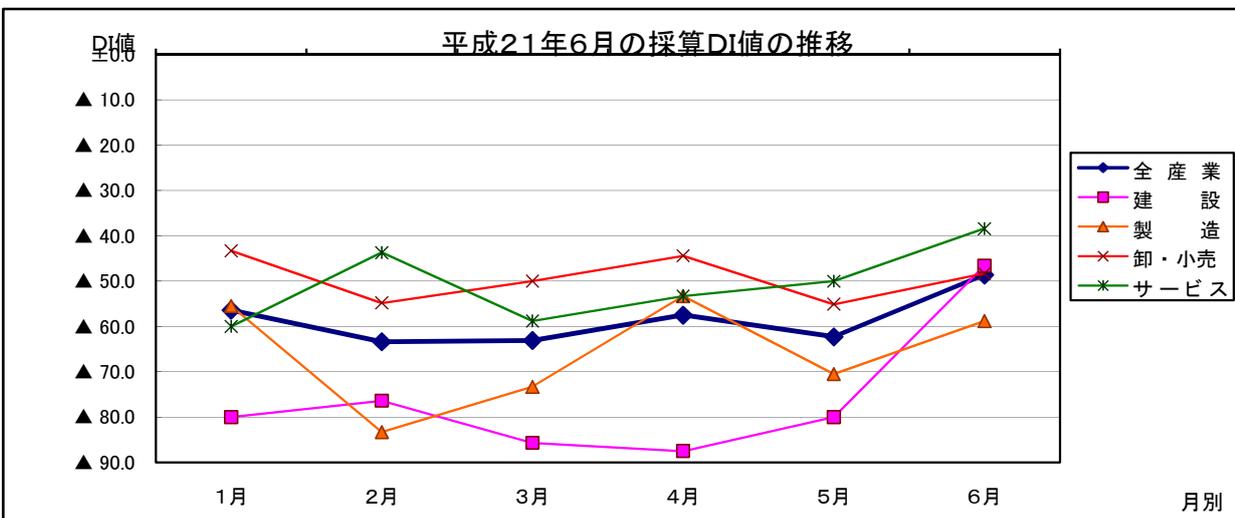
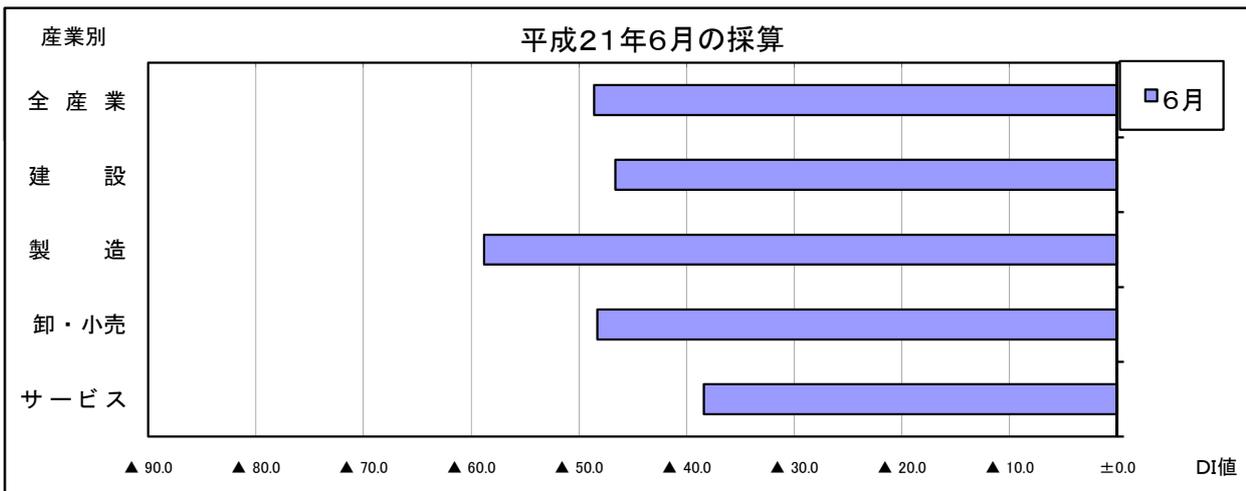
業種別では、前月水準と比べて、全ての業種において、マイナス幅が縮小しており、幅の大きい順に、建設業▲46.6(同▲80.0)、製造業▲58.8(同▲70.5)、サービス業▲38.4(同▲50.0)、卸小売業▲48.3(同▲55.1)である。特に、建設業はマイナス幅が△33.4ポイントと大幅に縮小した。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲34.2(前月水準▲36.3)となり、マイナス幅が2.1△ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲40.0(同▲60.0)、サービス業▲7.6(同▲25.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小する見通しである。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲29.4)、卸小売業▲38.7(同▲34.4)である。

平成21年6月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月～9月(6月～8月)
全産業	▲56.4	▲63.4	▲63.1	▲57.5	▲62.3	▲48.6	▲34.2(▲36.3)
建設	▲80.0	▲76.4	▲85.7	▲87.5	▲80.0	▲46.6	▲40.0(▲60.0)
製造	▲55.5	▲83.3	▲73.3	▲53.3	▲70.5	▲58.8	▲41.1(▲29.4)
卸・小売	▲43.3	▲54.8	▲50.0	▲44.4	▲55.1	▲48.3	▲38.7(▲34.4)
サービス	▲60.0	▲43.7	▲58.8	▲53.3	▲50.0	▲38.4	▲7.6(▲25.0)



【平成21年6月の仕入単価についての状況】

○6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6.5(前月水準▲2.5)となり、マイナス幅が▲4.0ポイント拡大した。

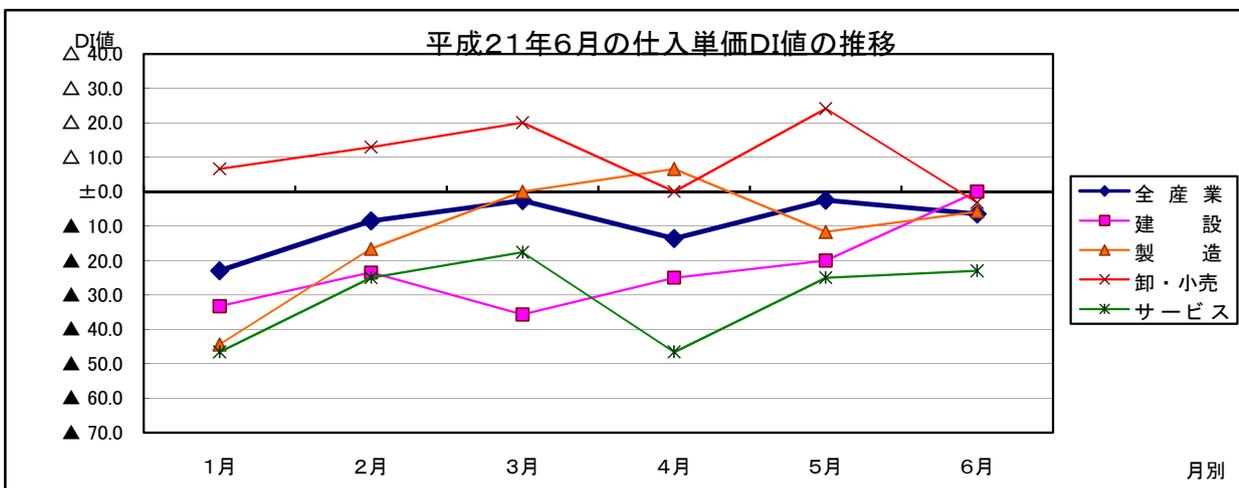
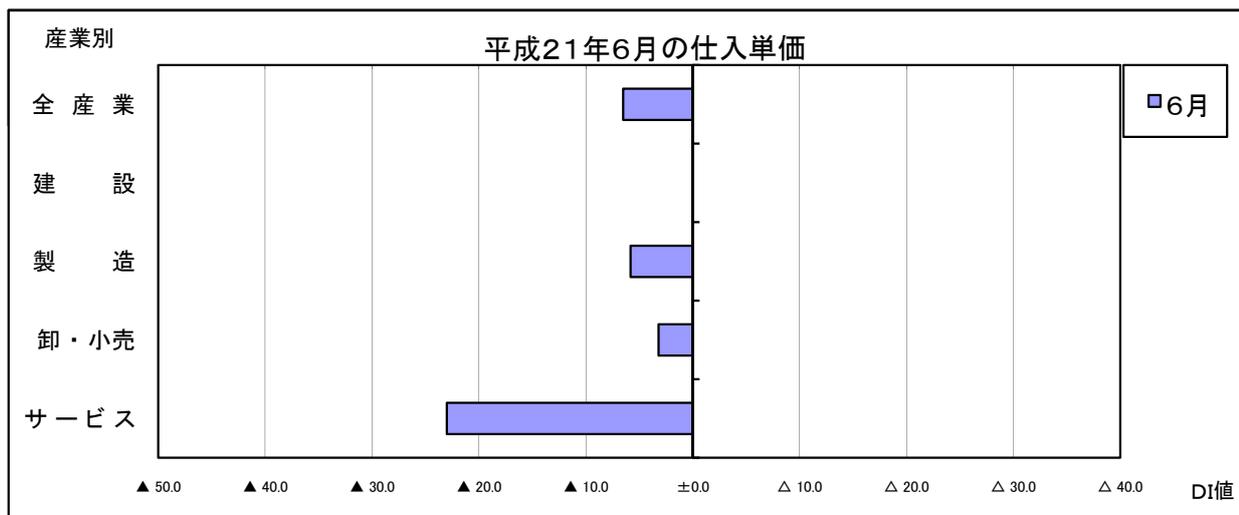
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲20.0)、製造業▲5.8(同▲11.7)、サービス業▲23.0(同▲25.0)であり、特に、建設業はマイナス幅が△20.0ポイントと大幅に縮小した。プラスからマイナスに転じた業種は、卸小売業▲3.2(同△24.1)であり、▲27.3ポイントと大幅に悪化した。

○向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.2(前月水準▲3.8)となり、マイナス幅が▲5.4ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲23.0(同▲31.2)である。変らない見通しの業種は、建設業▲6.6(同▲6.6)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲6.4(同△6.8)、製造業▲5.8(同△5.8)である。

平成21年6月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲23.0	▲8.5	▲2.6	▲13.6	▲2.5	▲6.5	▲9.2(▲3.8)
建設	▲33.3	▲23.5	▲35.7	▲25.0	▲20.0	±0.0	▲6.6(▲6.6)
製造	▲44.4	▲16.6	±0.0	△6.6	▲11.7	▲5.8	▲5.8(△5.8)
卸・小売	△6.6	△12.9	△20.0	±0.0	△24.1	▲3.2	▲6.4(△6.8)
サービス	▲46.6	▲25.0	▲17.6	▲46.6	▲25.0	▲23.0	▲23.0(▲31.2)



【平成21年6月の従業員についての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲15.7(前月水準▲14.2)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大した。

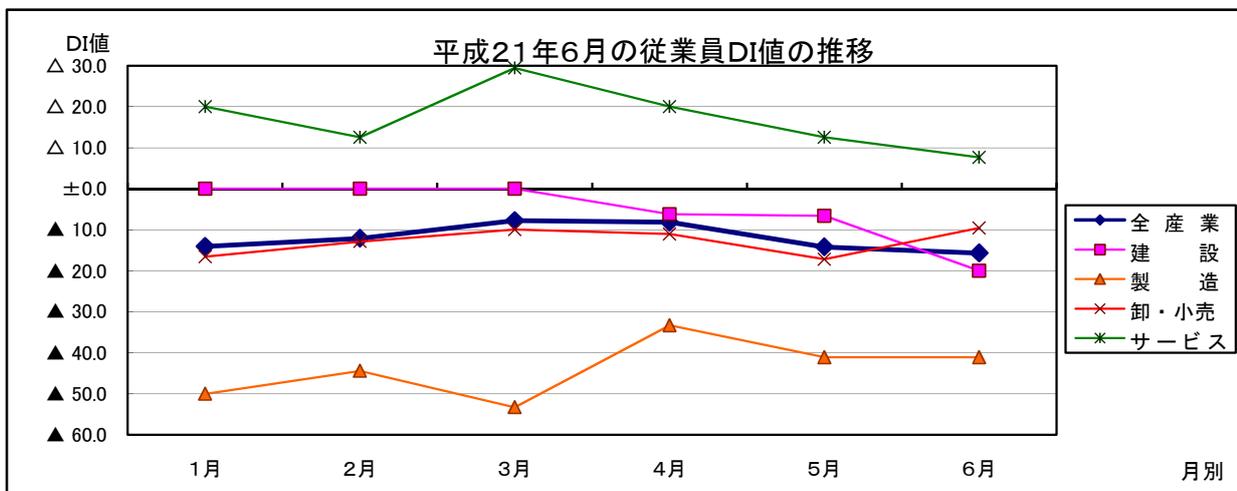
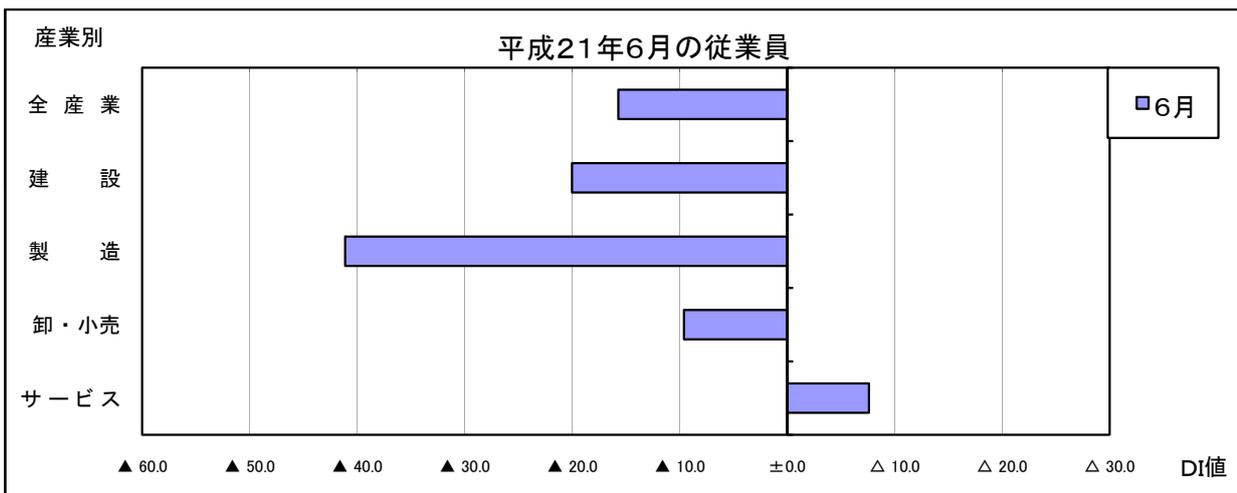
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲9.6(同▲17.2)である。変らない業種は、製造業▲41.1(同▲41.1)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△7.6(同△12.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲20.0(同▲6.6)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲14.4(前月水準▲19.4)となり、マイナス幅が△5.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△15.3(同△12.5)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲52.9)、卸小売業▲9.6(同▲20.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲13.3)である。

平成21年5月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲14.1	▲12.1	▲7.8	▲8.2	▲14.2	▲15.7	▲14.4(▲19.4)
建設	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.2	▲6.6	▲20.0	▲20.0(▲13.3)
製造	▲50.0	▲44.4	▲53.3	▲33.3	▲41.1	▲41.1	▲41.1(▲52.9)
卸・小売	▲16.6	▲12.9	▲10.0	▲11.1	▲17.2	▲9.6	▲9.6(▲20.6)
サービス	△20.0	△12.5	△29.4	△20.0	△12.5	△7.6	△15.3(△12.5)



【平成21年6月の資金繰りについての状況】

○ 6月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.8(前月水準▲37.6)となり、マイナス幅が△4.8ポイント縮小した。

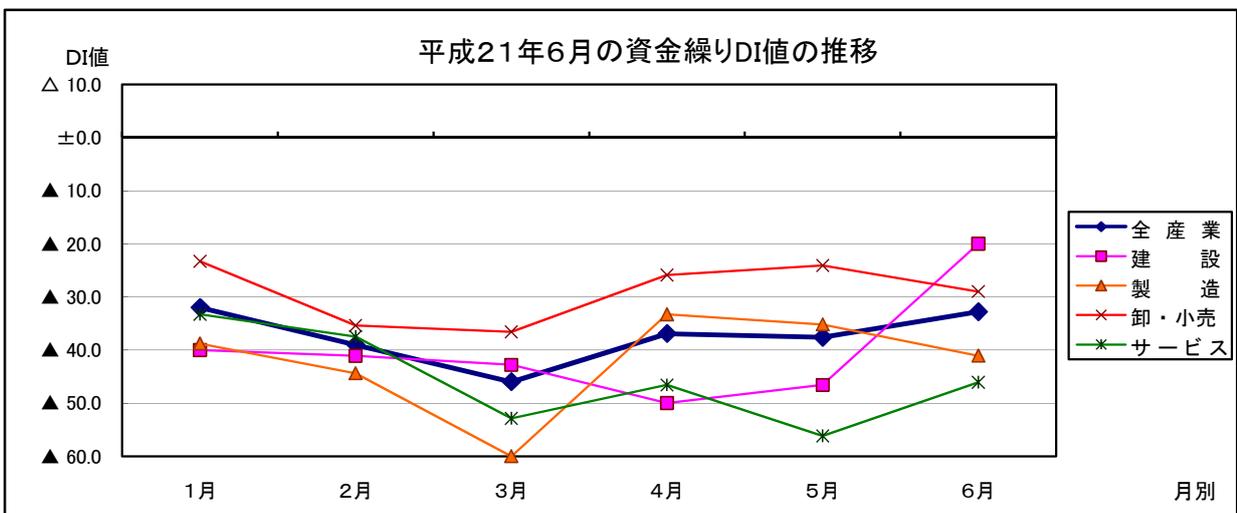
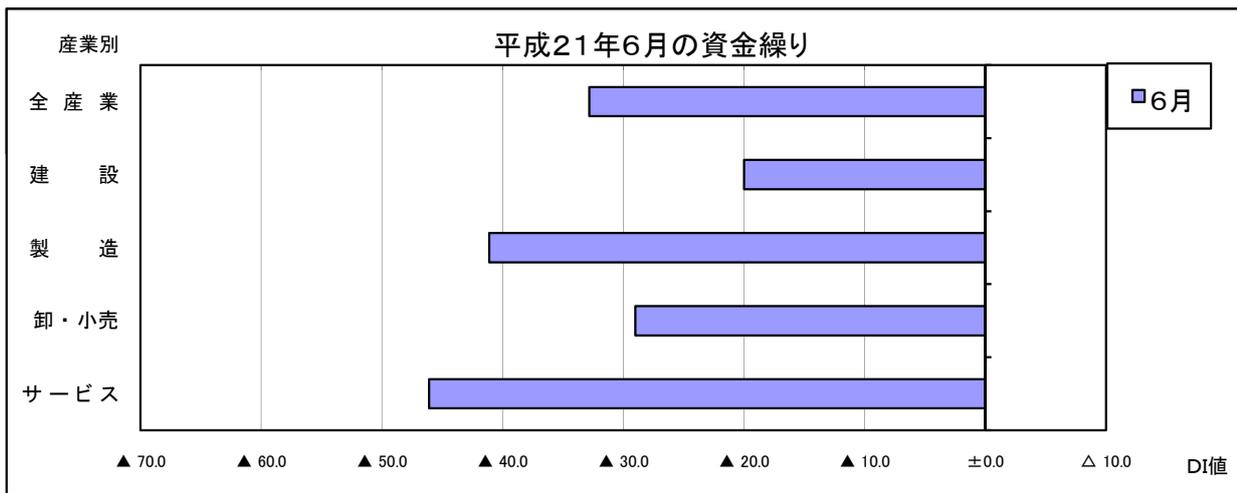
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲20.0(同▲46.6)、サービス業▲46.1(同▲56.2)であり、特に、建設業はマイナス幅が△26.6ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲41.1(同▲35.2)、卸小売業▲29.0(同▲24.1)である。

○ 向こう3ヶ月(7月から9月)の先行き見通しについては、全産業では、▲27.6(前月水準▲23.3)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲30.7(同▲43.7)である。変らない見通しの業種は、建設業▲20.0(同▲20.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲35.2(同▲17.6)、卸小売業▲25.8(同▲17.2)である。

平成21年6月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成21年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 7月~9月(6月~8月)
全産業	▲32.0	▲39.0	▲46.0	▲36.9	▲37.6	▲32.8	▲27.6(▲23.3)
建設	▲40.0	▲41.1	▲42.8	▲50.0	▲46.6	▲20.0	▲20.0(▲20.0)
製造	▲38.8	▲44.4	▲60.0	▲33.3	▲35.2	▲41.1	▲35.2(▲17.6)
卸・小売	▲23.3	▲35.4	▲36.6	▲25.9	▲24.1	▲29.0	▲25.8(▲17.2)
サービス	▲33.3	▲37.5	▲52.9	▲46.6	▲56.2	▲46.1	▲30.7(▲43.7)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 46.0	▲ 32.8	▲ 48.6	▲ 34.2	▲ 6.5	▲ 9.2	▲ 15.7	▲ 14.4
建設	▲ 53.3	▲ 53.3	▲ 46.6	▲ 40.0	±0.0	▲ 6.6	▲ 20.0	▲ 20.0
製造	▲ 52.9	▲ 41.1	▲ 58.8	▲ 41.1	▲ 5.8	▲ 5.8	▲ 41.1	▲ 41.1
卸・小売	▲ 45.1	▲ 29.0	▲ 48.3	▲ 38.7	▲ 3.2	▲ 6.4	▲ 9.6	▲ 9.6
サービス	▲ 30.7	▲ 7.6	▲ 38.4	▲ 7.6	▲ 23.0	▲ 23.0	△ 7.6	△ 15.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 53.9	▲ 38.1	▲ 32.8	▲ 27.6
建設	▲ 53.3	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0
製造	▲ 47.0	▲ 35.2	▲ 41.1	▲ 35.2
卸・小売	▲ 64.5	▲ 41.9	▲ 29.0	▲ 25.8
サービス	▲ 38.4	▲ 30.7	▲ 46.1	▲ 30.7

【平成21年6月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種
建設	良くなる見通しはありません	・先行き不安	一般土木建築工事業
	仕入単価は品物によってばらつきがあり、鉄関係は下がり気味	・仕入単価ばらつき	一般土木建築工事業
	県の発注工事が例年より遅れているので今後の状況が不安である	・公共工事 ・先行き不安	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	公共工事の前倒しの効果か、見積もり件数は増えてきているが、単価等内容はさらに厳しくなっているように思われる	・公共工事の前倒し ・見積もり増加	石工・れんが・タイル・ブロック工事業
	7~8月の受注は確保できましたが、5~6月の減少が悪影響となることが懸念されます。	・受注減少	板金・金物工事業
	共通商品券を当社でも扱うことになりましたが、地域の人々に聞いても知らない人がほとんどでPR不足のような気がします。売り上げ高は減少していますが、それ以上に値引きも多く利益がありません。	・共通商品券 ・売上減少 ・利益減少	管工事業(さく井を除く)
工業	業況は低迷している。受注の規模が小さくなり、設備投資も最低に抑える傾向にある。公共工事の前倒し・エコポイントの効果が表れるのはこれからだろう。	・業況低迷 ・受注規模減少 ・設備投資 ・公共工事の前倒し ・エコポイント	電気工事業
	状況は低水準で推移しているのでこれ以上下がるとは考えづらいが、それ以下になると、何らかの対策を取らねばならなくなる。	・業況低水準	その他の鉄鋼業
	本年9月以降より建築基準法・昇降機法令が強化され、費用の増が必ずしも販売価格に反映されず、大変厳しい経営環境となる	・建築基準法 ・経費増加 ・厳しい業況	一般産業用機械設備製造業
	全体的に悪いながらも大きな落ち込みはなさそう。増産のための設備投資は聞こえないが合理化のための設備投資を行う声は聞こえる。関係業者からは、ギリギリの状態だという声があり、多くの業者が雇用調整助成金を利用している。	・設備投資 ・厳しい業況 ・雇用調整助成金	その他の機械・同部分品製造業
卸小売	設備投資をするには費用面ではいい時期だと思います。また経営上のアイデアを練る時間もたっぷりありますが、利益として回収する自信があれば...	・設備投資	生コンクリート製造業
	5月のゴールデンウィーク明けから営業不振が継続しています。	・営業不振	食料・飲料卸売業
	日本全体の景況感は「下げどまり」と言われていますが、百貨店業界については当面「下げどまり」はないと考えています。百貨店を含め小売業全体が淘汰・再編の中にあり、これが落ち着くまでは厳しいものと考えております。	・百貨店業界 ・小売業界再編 ・厳しい業況	百貨店
	下取りキャンペーンが好評です(紳士服・婦人服フォーマル)	・下取りキャンペーン	百貨店
	プレミアム商品券の利用でもプラスアルファにはならず、毎日の食料品を中心に購入されるのではないかと考えています。	・共通商品券 ・食料品購入	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	春もの野菜の入荷増量はあるが、安値傾向で推移しています。果実では順調な入荷がありますが、同様に単価安で動いています。総体的にはやや入荷減・取扱高も減の相変わらず厳しい状況です。現経費の見直しを実行し、経営していますが、昨今の消費者の節約がますます景気低迷につながるのではないかと不安もあります。	・青果入荷増単価安 ・厳しい業況 ・経費見直し ・消費の節約 ・先行き不安	食料・飲料卸売業
	セール効果等もあり、売上客数ともに伸びている。しかし昨年7月よりのタスポの影響が今月で終わるので、対前年での数字は厳しいものになると予想される	・セール効果 ・売上客数増加 ・タスポ影響	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
天候不順と新型インフルエンザの影響が学校の休校等もあり、来客数減少＝売上マイナス。北部地区と隣市のショッピングセンターなど全体的に乱立気味で、売り出し等の頻度が増している、店舗と価格の競争が激しく、空き店舗が目立つようになったなど、当分この傾向が続くと思います。	・新型インフルエンザ ・来客数減少 ・大型店の売出し ・競争激化 ・空き店舗	その他の飲食物品小売業	

【平成21年6月の業種別業界内トピックス】

	<p>原油価格がやや上昇傾向にあるものの、不需要期に入りプロパンは小幅上げでおちつきそう。車両2台の入れ替えをはじめ設備投資資金がかなり必要な時期になってきている。今季も困難なスタート。</p> <p>先行き増税(時期上げ幅)が心配</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原油価格上昇 ・不需要期 	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
		<ul style="list-style-type: none"> ・増税 ・先行き不安 	書籍・文房具小売業
	<p>業界全体の売上高が前年比94~95%となっている。店舗数の減少と売り場面積の増大が相変わらず続いている。</p> <p>売上の下げ止まり感はない。各種の経済活性化策も、小売り業界には反映されていないような気がする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・店舗数減少 ・売り場面積増加 	書籍・文房具小売業
	<p>6月度は各種イベントを開催し、入店客数は前年を上回る推移となったが、売上高は先月に引き続き低調な推移となった。2週目は天候に左右される日が多く、売上高はさらに落ち込みを見せた。中旬以降ボーナス需給の影響もあり、3週目末の売上高は前年を上回ったが、月間ベースでは依然前年を下回る推移となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・催事 ・売上高低調 ・天候の影響 ・ボーナス受給 	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの) 各種商品小売業
	<p>商品に対して高くても価値のあるものか、最低限の機能のあるもの(超低価格)のもの、2極分化が顕著である。文具は一般消費者は100円ショップで購入するものと考えているかもしれない。中途半端な商品は必要なくなっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・価格の二極化 	書籍・文房具小売業
サービス	<p>宿泊・宴会ともに企業利用が減少。宴会は新型インフルエンザで取りやめが2件あった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊宴会減少 ・新型インフルエンザ 	ホテル
	<p>悪化している。メニューの改定等と7月に対策を考えているが、値下げしか思いつかないのが経営者として残念。今後は共通商品券が頼りの綱です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営悪化 ・共通商品券 ・メニュー改定 	酒場・ビヤホール
	<p>人手が足りないため募集したところ、100人近くの応募があり逆に困りました。こんなところにも失業率の高さと不況の現実を目の当たりにしました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・失業率 ・不況の現実 	獣医業

◎先行き不安

- ・「良くなる見通しはありません」 (一般土木建築工事業)
- ・「県の発注工事が例年より遅れているので今後の状況が不安である」 (土木工事業)
- ・「現経費の見直しを実行し、経営していますが、昨今の消費者の節約がますます景気低迷につながるのではないかと不安もあります」 (食料・飲料卸売業)
- ・「先行き増税(時期上げ幅)が心配」 (書籍・文房具小売業)

◎厳しい業況

- ・「本年9月以降より建築基準法・昇降機法令が強化され、費用の増が必ずしも販売価格に反映されず、大変厳しい経営環境となる」 (一般産業用機械設備製造業)
- ・「全体的に悪いながらも大きな落ち込みはなさそう。増産のための設備投資は聞こえないが合理化のための設備投資を行う声は聞こえる。関係業者からは、ギリギリの状態だという声があり、多くの業者が雇用調整助成金を利用している」 (その他の機械・同部分品製造業)
- ・「本全体の景況感は「下げどまり」と言われていますが、百貨店業界については当面「下げどまり」はないと考えています。百貨店を含め小売業全体が淘汰・再編の中にあり、これが落ち着くまでは厳しいものと考えております」 (百貨店)
- ・「春もの野菜の入荷増量はあるが、安値傾向で推移しています。果実では順調な入荷がありますが、同様に単価安で動いています。総体的にはやや入荷減・取扱高も減の相変わらず厳しい状況です」 (食料・飲料卸売業)

◎共通商品券

- ・「共通商品券を当社でも扱うことにしましたが少々PR不足のような気がします」 (管工事業)
- ・「プレミアム商品券の利用も、毎日の食料品を中心に購入されるのではないかと考えています」 (その他の各種商品小売業)
- ・「悪化している。メニューの改定等と7月に対策を考えているが、値下げしか思いつかないのが経営者として残念。今後は共通商品券が頼りの綱です」 (酒場・ビヤホール)

平成21年6月のCCI LOBOとの比較

- 【業況DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲53.9に対し、「CCI-LOBO」が▲64.2で、柏の方がマイナス幅が10.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲46.0に対し、「CCI-LOBO」が▲62.0で、柏の方がマイナス幅が16.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良く、製造業・卸小売業・サービス業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲48.6に対し、「CCI-LOBO」が▲60.9で、柏の方がマイナス幅が12.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業。
- 【仕入単価DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.5に対し、「CCI-LOBO」が▲11.6で、柏の方がマイナス幅が5.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業、卸小売業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種はサービス業。
- 【従業員DI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲15.7に対し、「CCI-LOBO」が▲18.7で、柏の方がマイナス幅が3.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、製造業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】** 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.8に対し、「CCI-LOBO」が▲42.7で、柏の方がマイナス幅が9.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・卸小売業で、建設業・製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業・サービス業で、サービス業は10ポイント以上悪い。

平成21年6月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50 > DI 25	まあまあ 25 > DI 0	不振 0 > DI 25	極めて不振 25 > DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 53.9	 53.3	 47.0	 64.5	 38.4
CCI LOBO	 64.2	 66.7	 70.6	 63.4	 57.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 46.0	 53.3	 52.9	 45.1	 30.7
CCI LOBO	 62.0	 60.3	 65.9	 64.6	 56.2

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 48.6	 46.6	 58.8	 48.3	 38.4
CCI LOBO	 60.9	 67.1	 68.3	 58.4	 53.3

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 6.5	 ±0.0	 5.8	 3.2	 23.0
CCI LOBO	 11.6	 18.5	 10.1	 7.1	 15.2

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 15.7	 20.0	 41.1	 9.6	 7.6
CCI LOBO	 18.7	 36.5	 28.4	 9.0	 8.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 32.8	 20.0	 41.1	 29.0	 46.1
CCI LOBO	 42.7	 50.9	 56.6	 32.9	 35.9

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(6月の調査結果のポイント)

調査期間：平成21年6月17日～23日

調査対象：柏市内 107 事業所及び組合に
ヒアリング、回答数 76

柏の景気情報・産業別業況DI

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
1月	▲65.3	▲80.0	▲66.6	▲56.6	▲66.6
2月	▲74.3	▲58.8	▲88.8	▲74.1	▲75.0
3月	▲68.4	▲78.5	▲73.3	▲60.0	▲70.5
4月	▲64.3	▲68.7	▲66.6	▲59.2	▲66.6
5月	▲59.7	▲66.6	▲58.8	▲58.6	▲56.2
6月	▲53.9	▲53.3	▲47.0	▲64.5	▲38.4
見通し	▲38.1	▲40.0	▲35.2	▲41.9	▲30.7

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

柏市の業況

業況DIが4か月連続で回復 業況や先行きには不安感あり

6月の全産業合計のDI値(前年同月比・ベース以下同)は53.9(前月水準59.7)となり、マイナス幅が5.8ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業 38.4(同56.2)、建設業 53.3(同66.6)、製造業 47.0(同58.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業 64.5(同41.9)である。

【建設業】では、「仕入単価は品物によってばらつきがあり、鉄鋼係は下がり気味」「一般土木建築(工業業)」「公共工事の前倒しの効果が見積もり件数は増えてきているが、単価等内容はさらに厳しくなっているように思われる」(石工・れんが・タイル・ブロック工業業)「7～8月の受注は確保できたが、5～6月の減少が悪影響となることが懸念されます」(板金・金物工業業)「業況は低迷している。受注の規模が小さくなり、設備投資も最低に抑える傾向にある。公共工事の前倒し・工口ポイントの効果が表れるのはこれからだ」と(電気工業業)など、特に公共工事の前倒しに関するコメントが多く寄せられた。

【製造業】では、「状況は低水準で推移しているのでこれ以上下がることは考えづらいがそれ以下になると何らかの対策を取らねばならなくなる」(その他の鉄鋼業)「設備投資をするには費用面ではいい時期だと思います。また経営上のアイデアを練る時間もたっぷりありますが、利益として回収する自信があれば」「(生コンクリート製造業)などの声が上がってきた。

【卸小売業】では、「5月のコーラルデンウィーク明けから食品業不振が継続しています」(食料・飲料卸売業)「天候不順と新型インフルエンザの影響が学校の休校等もあり、来客数減少＝売上マイ

ナス。北部地区と隣市のショッピングセンターなど全体的に乱立気味で売り出し等の頻度が増している。店舗と価格の競争が激しく、空き店舗が目立つようになっている。当分の傾向が続くと思えます」(その他の飲食料品小売業)「業界全体の売上高が前年比94～95%となっている。店舗数の減少と売り場面積の増大が相変わらず続いている」(書籍・文房具小売業)「売上の下げ止まり感はないが、各種の経済活性化策も、小売業界には反映されていないような気がする」(その他の各種商品小売業)など、多くのコメントが寄せられた。

【サービス業】では、「宿泊・宴会ともに企業利用が減少。宴会は新型インフルエンザで取りやめが2件あった」(ホテル)「人手が足りないため募集したところ、100人近くの応募があり逆に困りました。こんなところにも失業率の高さと不況の現実を目の当たりにしました」(獣医療)などのコメントがあった。

6月の景気キーワード

先行き不安

多くの業種から、「良くなる見通しはありません」(一般土木建築工業業)「県の発注工事が例年より遅れているので今後の状況が不安である」(土木工業業)「現経費の見直しを先行し、経営して

いますが、昨今の消費者の節約がますます景気低迷につながるのではないかと不安もあります」(食料・飲料卸売業)「先行き増税(時期上り幅)が心配」(書籍・文房具小売業)など、声が多く上がっていた。

厳しい業況

各業種から、「本年9月以降より建築基準法・昇降機法令が強化され、費用の増が必ずしも販売価格に反映されず、大変厳しい経営環境となる」(一般産業用機械設備製造業)「全体的に悪いながらも大きな落ち込みはなさそう。増産のための設備投資は聞かえないが合理化のための設備投資を行う声は聞かえる。関係業者からはギリギリの状態だ」という声があり、多くの業者が雇用調整助成金を利用して「(その他の機械・同部刃物製造業)」「本全体の景気感」下げどまり」と言われていますが、百貨店業界については当面「下げ止まり」はないと考えています。百貨店を含め小売業全体が淘汰・再編の中にあり、これが落ち着くまでは厳しいものと考えております」(百貨店)「春先の野菜の入荷増量はあるが、安値傾向で推移しています。果実では順調な入荷がありますが、同様に単価安で動いています。総体的にはやや入荷減・取扱高も減の相変わらず厳しい状況です」(食料・飲料卸売業)などのコメントもあった。

共通商品券

6月に柏市共通商品券が販売されたことから、各業種より、「共通商品券を当社でも扱つことにしました」が少々PR不足のような気がします」(管工業業)「プレミアム商品券の利用も、毎日の食料品を中心に購入されるのではないかと思っています」(その他の各種商品小売業)「悪化している。メニューの改定等と7月に対策を考えているが、値下げしか思いつかないのが経営者として残念。今後は共通商品券が頼りの綱です」(酒場・ピヤホール)などの声も寄せられ、市内事業者からも、関心を持たれていたことがうかがえる。

CCI・LOBBOJG比較

全産業合計では、「柏の景気」が53.9に対し、「CCI」が64.2で、LOBBOJGが64.2で、柏の方がマイナス幅が10.3ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、いずれも10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(6月速報)

調査期間：平成21年6月17日～23日

調査対象：全国の407商工会議所が2588業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、マイナス幅が4か月連続で縮小

6月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、以下同じ)は、64.2となり、前月に比べ+1.5ポイントと、4か月連続でマイナス幅が縮小した。業況は一旦底を打ったとみられるが水準は依然として厳しく楽観を許さない。また、マイナス幅の縮小ペースはやや鈍化している。産業別にみると、DI値のマイナス幅は、製造業のみ悪化した。景況に関する声、当面する問題としては、各地から、公共工事の前倒し実施について、国(地方局や地方自治体)により進捗程度が異なるとの声が多く寄せられた。また、定額給付金については、プレミアム付商品券等の利用を通じて効果が表れているとの声がある一方、業種間の差が大きく効果は一時的ではないかとの声もある。先行きについては、公共工事に期待する声が圧倒的に多かった。一方、雇用情勢の悪化や設備投資の減退など需要の低迷等により、景気の底割れや長期停滞を懸念する声が出ている。ボーナス減少による個人消費の減退や、秋以降の新型インフルエンザの流行を懸念する声もあった。サービス業からは燃料価格の上昇を懸念する声もあった。

【建設業】「公共事業の前倒しで仕事が増え、売上は下げ止まったと思われるが、先行きは楽観できない」「(一般工業)「前倒しをしているとは思えない」「(土木工業)「仕事があっても、採算割れの仕事ばかりである」「(塗装工業)「製造業」「底打ち感はあるが、底がいつまで続くのか予測できない」「(織物製造業)「売上の見通しがたつ事業所が増加」「(電子部品製造業)「造船関連では、新造のキヤンセルがあちこちで出始めている。今後、厳しい局面になる」「(船舶製造・修理業)「卸売業」「食品原材料・加工卸では売上増加。他の業種では減少が続く」「(各種商品卸売業)「消費者の低価格志向が業界全体にダメージを与えている」「(衣服・日用品卸売業)「得意先も徐々に状況が悪化し、貸倒引当金も増えざるを得ない状況。採算面にも影響が出ている」「(建築材料卸売業)「小売業」「在庫品の一掃大売り出しが他店も含め前倒しされている。それを予想した買い控えが見られる」「(百貨店)「定額給付金の効果で一時的に良い時期もあったが、消費者の財布の紐は固く、客単価は思うように上がらなかった」「(その他の小売業)「ボーナスの減少もあり消費の改善は見込めない」「(商店街)「サービス業」「客室料の下落が続く。満室であっても売上目標に達しない」「(旅館)「資金繰りについては、一時の厳しい状況からは好転した」「(美容)「大手業者が官公庁入札において驚くほどの低価格で落札」「(建物サービス業)「雇用情勢の悪化

六月のキーワード

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。製造業からは、「作業時間の短縮から雇用環境に厳しさが広がっている」「(新居浜)「一般産業用機械製造業」「雇用調整助成金に係る教育訓練を行っている」「(川口)「鉄骨形材製造業」「4勤3休の企業が大半」「(高崎)「自動車・付属品製造業」「経費削減が厳しい中で、いよいよ人員整理まで踏み込むか検討している」「(二島)「建設・鉱山機械製造業」卸売業からは、「製造ラインの3分の1を止めて、雇用調整助成金を活用し、しのいでいる。体力勝負の出口が見えず不安」「(浦安)「鉱物金属材料卸売業」「売上・粗利の減少によりストラ効果が出ない」「(鹿嶋)「各種商品卸売業」サービス業からは、「雇用の問題が身近になっている」「などの声も寄せられている。

経済対策に対する期待感

定額給付金や高速道路料金値下げなど政府が打ち出している大型

経済対策による景気底入れへの期待感が引き続き寄せられている。建設業からは、「補正予算の効果に期待」「(帯広)「一般工業」「経済危機対策として公共工事の前倒し実施が盛り込まれているため、前年に比べて発注は多かった」「(米子)「一般工業」「官公庁の前倒し発注に期待」「(長崎)「一般工業」「製造業からは、「環境対応車の部品を製造している会社のみが上向きで、まだまだ、先行きの見通しがつかない」「(西尾)「鉄骨形材製造業」「高速道路値下げで売上が多少増加した」「(高松)「他の食料品製造業」小売業からは、「定額給付金や地域振興券、エコーカー、工口家電がどのように消費を喚起するか注目している」「(札幌)「百貨店」などの声も寄せられた。

一方で、「公共工事の前倒しはまだない」「(浜川)「一般工業」「上期発注と言われているが、今のところ発注件数は少ない」「(直方)「一般工業」といった景気対策の早期実施を求める声も引き続き多かった。

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下を危惧する声も建設業を中心に多く寄せられた。建設業からは、「公共工事について採算にあわない低価格受注が多く見られる」「(静岡)「一般工業」「公共工事の前倒し実施で受注量は前年に比べ多くなったが、低価格受注により採算割れの

し。件数はかなりである」「(鎌倉)「塗装工業」「製造業からは、「仕事量確保のための低価格受注が多い」「(松戸)「建設業用金属材料卸売業」卸売業からは、「消費者の購買意欲が低下し、さらに低価格志向になっている」「(京都)「衣服・日用品卸売業」小売業からは、「競争激化による安売り合戦で収益性が低くなっている」「(焼津)「百貨店」サービス業からは、「客単価が下がり業界内での過剰競争もあり厳しい」「(十別)「クリーニング」といった声も寄せられた。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
1月	▲71.3	▲73.2	▲72.5	▲71.6	▲70.6	▲69.6
2月	▲73.4	▲75.8	▲75.6	▲71.1	▲71.5	▲72.6
3月	▲72.8	▲72.1	▲73.5	▲70.5	▲75.5	▲70.2
4月	▲70.4	▲70.9	▲74.4	▲66.7	▲70.9	▲66.9
5月	▲65.7	▲71.6	▲69.1	▲66.2	▲66.2	▲57.7
6月	▲64.2	▲66.7	▲70.6	▲61.8	▲63.4	▲57.3
見通し	▲48.3	▲46.8	▲46.4	▲42.4	▲54.3	▲46.7

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI